

【緑地の樹】

ニシキギ(錦木) 別名：カミソリノキ

プロフィール：ニシキギ科 ニシキギ属
の落葉広葉樹 低木

緑地中央広場北側の急斜面の日陰に、高さ 70～80 センチ程のニシキギが一本生えている。12 月だというに、葉の色はまだ黄緑色。ほんの数枚が赤く色づき、三粒ほど熟した実が破裂して、きれいなオレンジ色の種が顔を覗かせている。ニシキギの古い枝には、「翼（ヨク）」と呼ばれるカミソリのような長方形のコルク質の羽が付いている。この翼のないものは「コマユミ」で、ニシキギの変種と考えられている。



ニシキギは世界三大紅葉樹の一つとされ、赤く染まった葉の美しさは一際眼を引き、錦に例えられて「ニシキギ」と名づけられたそうだ。

「ニシキギ」というと、世阿弥作の謡曲「錦木」が思い浮かぶ。秋田県鹿角市錦木を背景にした悲恋物だ。

錦木地方にはその昔、若者が「ニシキギ」の枝を好いた女人の家の門に挿し立て、女人がその枝を取り入れたら、二人は結ばれるという風習があった。

ある錦木売りの男が名家の娘を見初め、毎日毎日、三年に亘って錦木を立て続けたが、枝が受け取られる事はなく、遂に疲れ果てて亡くなってしまう。娘は受け入れたくはあったが、その頃、大鷲が赤子をさらう事件が頻発し、羽毛の織物がそれを防ぐと聞き、機織の名手であった娘は三年三月休むことなく織り続けなければならなかった。織り終えて、若者が既に亡き者と知り、悲嘆の余り後を追ってしまう。不憫に思った父親が供養のために建立したのが今の鹿角市にある錦木塚である。

悲しい話の後には気分直しに簡単な料理を一品ご紹介します。元は京都のお茶屋さんの料理です。その名も「ニシキギ」。お椀に、梅干の果肉、わさび、鰹節、ゴマ、醤油、もみ海苔などを入れ、ぐしゃぐしゃとよく混ぜ合わせる。それだけ！それを熱々のご飯に載せてかっ込む。悲恋の涙が、鼻をツツと抜ける涙に様変わりすること請け合いです。

(かつた)

